

平成29年4月

## 就任の挨拶

施設長 國弘昭義

このたび、施設長を拝命いたしました。この素晴らしい生長の家神の国寮をお創り下さいました谷口雅春先生に報恩感謝の誠を捧げつつ、全力を尽くしてまいる所存でございます。何卒、格別のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

施設長就任にあたり、ひとつ決意したことがあります。

「常に子どもたちと職員とともにある」ことです。そのために、新たに今年度から運用を計画している「卒業生のためのシェアハウス」に住み込むことにしました。

私事で恐縮ですが、私は、かつて「教護院」と呼ばれていた児童福祉施設（現在の「児童自立支援施設」）の中で育ちました。山口県にある「県立育成学校」で、父が教護、母が教母として働いていたからです。当時は、入所していた小学生・中学生の寮舎と職員官舎とは扉ひとつでつながっていて、学校から家に帰るとそこにはいつも同年代の「ちよつと変わった友達」がいて、一緒に遊びながら育ちました。そんな少年期に見た父母のように、いつも、子どもたちと職員の傍において、安心・安全の見守りをする事、そこから施設長の仕事を始めさせていた

できます。

そして、認め合い、褒め合い、讃え合う「和顔・愛語・讃嘆」の実践を通して、子どもたちも職員も笑顔はじける神の国寮をつくっていききたい！子どもに宿る「神性・仏性」を信じ、「よき言葉の創化力」を活用して引き出してあげたい！と日々祈ってまいります。

良き言葉を発すると、自分自身  
がその良き言葉の力によって育て  
られるのであります。空から花び  
らが降るように讃歎語をもって  
雨降らすのが生長の家の生き方  
であります。今日から、空から花び  
らが降るように、いつも善き言葉  
を雨降らすようではありませんか。  
善き言葉は人生の宝であります。  
常に優しい心持をもち、愛に満ち  
た露うるわいのある心を持ち、人に接す  
る時、拝み合い感謝し合い、相手  
を尊敬して、その自信を失わしめ  
ない。これが深切の中の一番の深  
切になるのであります。

（谷口雅春著『人生読本』）

この谷口雅春先生のお言葉を心に刻み、子どもたちのために骨身を惜しまず日々のケアワークに真摯に取り組んでくださる職員の皆さんと心ひとつに力を合わせ、子どもの最善の幸せを実現する生長の家神の国寮めざして無我献身してまいります。